

(仮名)

O・B 会 報

第 零 号

横浜国立大学
ワングル部
O・B 会発行
1962・9・20

— 発刊のことは —

O・B 会発刊以来、一年
数ヶ月、はじめの一年
は会費の全てを部に寄
附し出した活動はな
かつた。その後も会長
の入院など沈黙が続い
たわけである。しかし
最近会の活動に関する
会合に在不在員によつ
てなされ、O・B 会は彼
自の活動をすべきであ
ると云うことから、O
B 会の会誌をつくり、
部誌にのみ依存せず、
連絡、意見の交換を行
なおう、又経済的にモ
のB 会費を全部寄附す
る様な変則をやめ、活
動費としてO・B 会の運

営のために枝える様に
しよう云うことにな
った。折しも七月十四
日に夏合宿研究会があ
り、出席したO・B 会右
と現役との話し合いが
行なわれて、O・B 会費
は全部のB 会に帰する
ことが確認された。
そこでO・B 会の活動
のオースとして会報を
発刊し、又秋総会に会
則を確立しよう云う
こととなり、とりあえ
ず零号誌を発刊し、会
則案と共にO・B 諸君の
会に対する意向を伺う
ものである。

会則案の問題点

会長 松本

本会の会則は、ほぼ
一年前に発会と同時に
配布されたのであるが
正式に採択されたもの
でなく、この際将来の
興に先に在京幹事の一
部と相談の結果を別紙
とし新たに配布するか
ら、意見その他の有る
者は書面などによりお
知らせ願えれば幸甚に
思う。その上で大学祭
の總會の席上採択にこ
ぎつけたいと思う。
何の会にしろ会則は
その会の本質その他を
端的に表わすのである
が、本会は一言で云え
ば卒業後も尚以前ガツ
子リ組んだスクラムを
怠れず山行その他を共
にし、連絡を断にし併

せて現役部の援助を
やることに目的がある
のを囁つてある。単に
かつてのサークルへの
寄付団体でないことに
留意して貰いたい。
ここに会報発刊の意義
も生れる。
オ二に構成要員であ
るが、ワングル出身と
いえども四年向みつち
り鍛えたものもあれば
又二、三年の者もあり
様々であるが、強制的
に全員卒業と同時に入
会の制度をとらないで
本人の意志とワングル
が認められたワングル学
士号を授与され卒業をし
た者であることが、出
身校友有志の意味であ
ることには留意されたい。
次いで組織について
は原則として連絡委員
会には幹事出席だが、

出府出来ないことも多いだろうから、同期の出席者に議決権を与え多数の意見を取り入れようとの趣意であり、定足数についてもあまり厳しくないので、B会系統の会は仲々各自都合の悪くなる者が多いことを考慮してのことである。偏向は現在の英才一期生で工学部助手である若納君が、現役との接触その他に最も力あることなどから推せんする。地方支部については将来の問題であるが一条加えて、そのよすがとしたのである。

基金は遺贈、山小屋等の為であり、緊急時を除いては会則にはないが連絡会等ではつきりした強い一致をみよるときにのみ支取することにした。一定の金額を指定した積立でないことは先々問題を生じかもしれないが、会費、通信運賃等を除き少しづつということになり、会計期間の四月年度のものと併せ意見を徴したい、尚秋若に現在の年、円最低という級ではスカイライン誌等に同じほゞ半額近い金額を要し、会報の発行回数、内容等にも重大な違いを及ぼす。

て集め、会計が保管その他の業務を為すことになろう。徴収時期は七月中旬が木リーナス時期であることが考慮された。

ともあれ会則なるものにはげられ、身動きできなくなつても困るが、大凡その枠は述べた積りである。

連絡メモ

◎勤務先電話番号変更
田上 尼ヶ崎殿 に変更

◎電話番号通予定
嘉納 十一月上り藤沢

会費未納の人は一口
円と東京都千代田区
松本

宛至急お送り下さい。

編輯集後記

○本紙発刊は少人数で決めたことで、会報も、更には本紙の発刊それ自体も正式のものではないので、あえて季号と称し、正式のものをお一号と名づけたためのアロートル号である。

○殊に地方在住の人は山行、近況等務めて投稿されんことをお願いいたします。その上土地のユニークな話題、現役に返る言葉、詩歌、ガット等充実した紙面を作る為にとしく送って下さい。多忙な折には山行でなくとも手紙の端に記録だけでもお送り下さい。

○本会も二水から向題も沢山あるが、皆のフアイトでがんばろう。